

忍び寄る業者の影

慈眼寺のヤマブキソウ (福井県南越前市今庄町小倉谷)

ヤマブキソウは意外にもケシ科の植物で、花がヤマブキに似ている事による。たいてい群生し、見事な景観を呈する。

撮影された場所は、福井県の山寺・慈眼寺という寺の裏山。この寺は、裏庭にシャクナゲが美しく咲く寺で、地元新聞に、北陸の古寺の連載をしていて訪れた。裏山に続く道があるので散策していると、この大群生が目に残ったのである。杉林の床一面に広がる黄色の花は、見事の一言。夢中で撮影したものである。

この寺のもう一つの思い出は、寺の裏に白花カタクリが二輪咲いていた事。まだフィルム時代で、白花カタクリの貴重さに理解がなかった。カタクリのアルビ

ノがある程度の認識で撮影だけしておいた。後日、あるカタクリの専門書で、十万本に一本の確率と知り、驚いたものだ。

又、同じ境内の山裾にラショウモンカズラの群生も見えた。この地域では、田の畦にイチリンソウが咲乱れる等、一帯が山野草の宝庫なのであった。

かなり年月が経って、この近く取材に訪れた事があり、ヤマブキソウや白花カタクリが気になって訪れてみた。見事にヤマブキソウは一株も残っていなかったし、シロバナカタクリも盗掘されていた。これ程根こそぎなくなっているのは、おそらく業者による盗掘であろう。

又一つ、花のスポットが消えた。無念の一言である。



慈眼寺の美しい杉並木参道、正面本堂の裏手にヤマブキソウの群生地があった。